

平成26年 9月11日

■同時発表先：合同庁舎記者クラブ、鳥取県政記者会、島根県政記者会、岡山県政記者会  
広島県政記者クラブ、山口県政記者会、山口県政記者クラブ  
山口県政滝町記者クラブ、中国地方建設記者クラブ

## 建設企業経営支援のポイントはどこ 中国地区信用金庫協会と初の共同開催 ～建設業経営改善に係る事例研修会開催～

- ◆目的 地域の安全・安心を担う中小建設業の経営が厳しい状況にある中で、地方の中小建設業の経営支援等を担う信用金庫担当者の皆様に、建設業の経営の実態、経営支援のポイントを説明し効果的な経営支援に繋げてもらうため、初の試みとして国と中国地区信用金庫協会とで協同して建設業経営改善に係る事例研修会を開催します。
- 地域の建設需要を掘り起こし、適切な利潤を確保する「原価管理」を徹底し、経営再建を果たした（株）小坂田建設による事例をもとにした講義と現地見学、同社が利用した国の支援事業紹介を行います。

- ◆日時 平成26年9月17日（水）12：30～15：00
- ◆場所 岡山市建部町文化センター 岡山市北区建部町建部上899
- ◆主催 国土交通省中国地方整備局・（一社）中国地区信用金庫協会
- ◆対象者 中国5県の16信用金庫 経営支援・融資・審査担当者26名
- ◆内容 ・国の支援事業紹介「建設企業等のためのアドバイザー事業」  
・（株）小坂田建設の講義「建設企業の経営改善の取組について」及び現地見学  
※その他詳細は添付資料

本件に関する問い合わせ先>

中国地方整備局 082-221-9231（代表）

【担当】 建政部 計画・建設産業課長 佐藤 篤（内線6121）  
建政部 計画・建設産業課長補佐 立岩 晃（内線6142）

【広報担当窓口】

広報広聴対策官 坂本 繁幸（内線2117）  
企画部 環境調整官 田尾 和也（内線3114）

# 「建設業経営改善に係る事例研修会」

開催日：平成26年9月17日（水）

場 所：岡山市建部町文化センター

時 間	日 程
11:50	《集 合：岡山市建部町文化センター》
}	・ J R利用の方は、J R福渡駅、11:40にマイクロバスを手配しております。
	・ 車でお越しの方は、直接、建部町文化センターにお越し下さい。
	《昼 食》
12:30	「建設業経営改善に係る事例研修会」
}	～建設企業等のための経営戦略アドバイザー事業について～
(20分)	国土交通省 中国地方整備局 建政部 佐藤 篤 計画・建設産業課長 経営戦略アドバイザー 砂口 たくし
12:50	～建設サービス業の取組み等について～
}	(株)小坂田建設 代表取締役 小坂田 英明 氏
(90分)	～質疑応答～
14:20	《マイクロバスで移動》
(10分)	
}	
14:30	(株)小坂田建設到着
(40分)	「(株)小坂田建設視察」
	(株)小坂田建設 代表取締役 小坂田 英明 氏
15:10	《解 散》
(20分)	マイクロバスで J R福渡駅、建部町文化センターまでご案内いたします。
15:46	J R福渡駅
}	
16:36	J R岡山駅

(株) 小坂田建設

1955年創業。資本金2500万円で社員数は11人。現在の代表取締役 小坂田英明氏が三代目となる。2008年末に会社倒産の危機。専門家派遣事業を活用しながら経営改善に着手。原価管理の取組や建設会社を身近なイメージにのみに地域に向け折り込みチラシの配布や自社PRイベントを開催、民間工事の受注を伸ばす。建設関連に限らず地域で家回りの困りごとの相談に応え業績を改善させた。

## コラム

地域のニーズを取り込み、再生を目指す  
中小建設企業の実践～建設サービス業～

(株)小坂田建設は昭和30年の創業以来、岡山県の中山間地域にある旧建部町（現在は岡山市に編入）で、公共工事を中心に営業してきた中小建設企業です。昨今の公共事業予算の削減を受け、平成13年から9期連続で赤字決算が続くなど、同社もまさに倒産一步手前の状況にありました。

そんな同社が生き残りのためにたどりついたのが「小さなことはやってもらえない」という建設業のイメージを全面的に変えることで地域のニーズを取り込む戦略でした。21年春、同社は、トイレ詰まり、雨どいの掃除、庭の雑草取り等の家まわりから、お墓掃除、田んぼに水を入れやすくする、蜂の巣撤去等といったことまで、地域住民の暮らしの中での困りごと全般に、本業の建設業にとらわれずにワンストップ対応する「建設サービス業」をスタートさせました。同時に少額の工事でも赤字にならないよう、現場毎の日々の採算を把握する原価管理ソフトを導入しました。

建部町の住民約6,000人の内、一部エリアを除き、ほとんどがそれまで同社のことを知りませんでした。住民の交流の場にもなるような自社のお仕事紹介イベントの定期開催や毎月の新聞折込通信など「知ってもらおう」ための懸命な営業活動が実り、このサービスは住民に徐々に受け入れられ、また困りごとを解決することで築いた住民との信頼関係が後押しとなり、同社は墓地の改修や住宅リフォーム等の比較的大きな工事を受注するようになります。結果として業績は徐々に上向きに転じ、24年度には3期連続で黒字となるまでに回復しました。

同社は現在、国土交通省「建設企業のための経営戦略アドバイザー事業」の専門家派遣も利用しながら、「建設サービス業」のうち、サービス体制が十分でない建築リフォーム分野や農業分野で、顧客の多様・多方面な要望に十分にこたえるための仕組みづくりを進めています。

公共事業関係予算が限られる中、公共事業を中心に取り組んできた同社がこのような形で地域住民のお困りごと解決を糸口に民間工事にシフトし、再生の道筋をつけたことは、今後の地域の中小建設企業にとって、一つの示唆となるのではないのでしょうか。



資料) (株)小坂田建設

## 建設サービス業として対応している作業



資料) (株)小坂田建設